

Fuu

あなたの暮らしに、新しい風

FUKUYA LIFESTYLE MAGAZINE

TAKE
FREE



vol. 1

FUKUYAの家づくりの歴史をつくった二人に、聞きました。

FUKUYAの変わらないこだわり
これからの暮らし

Next Issue

7.29 発行 vol.2 動物と、暮らす。

[発行元]

フクヤ建設株式会社

〒781-0015 高知市薊野西町3-35-29

☎ 088-845-4618

✉ fukuya@fukuya-h.co.jp

📷 @fukuya.kochi 📺 フクヤ建設 🔍



はじめまして Lifestyle magazine Fuu (フウ) は フクヤ建設の家、ひと、暮らしを伝えます。

暮らしを取り巻く状況に大きく変化のあった、ここ数年。誰もが、新しい生活を模索し続けたのではないのでしょうか？前向きに変化を受け入れ、風のように、かろやかでしなやかな発想で生き方を考えることができれば、きっと心は豊かに。暮らしは、健やかで潤いのあるものになっていきます。日々さまざまな角度から「暮らし」を考え、提案し続けるわたしたちのお届けする情報が、あなたの暮らしに、新しい風を吹かせますように。これからの暮らしや、人生を楽しむヒントが、そこに見つかりますように。そして、「ふう。」と、一息つくほっとした時間に、このマガジンを手に入れていただくと嬉しいです。

紙で伝えることを大切にしたい。

このマガジンは、フクヤ建設広報課の石川が企画したもの。デジタル化が進み、紙にふれる機会の減った今だからこそ、受け取る人の五感に訴え、本当の意味で私たちの想いを伝えることが出来ると考えました。思い返せば10年前、私が当社に入社を決めたきっかけのひとつは、当時の会社パンフレットでした。紙には、そんな心を動かす力があると信じています。



2023年6月2日、新社屋が落成しました。

フクヤ建設は、創業52年を迎えました。デザイナーと共に新社屋建設のイメージを固める中で、“これからの未来、建設業を楽しむために出来る事”を考え新社屋の姿に重ね合わせていきました。「人口減少により、建物を建てること自体の意味が変わっていく中で、私たち建設会社は何を創っていくべきか？20代、30代の若いSTAFFが固定観念にとらわれず自由な発想とチャレンジ精神で、新しいカタチを創っていく会社。安心して自由に人

生と仕事を楽しむことができる会社」そんな躍動するSTAFFの姿をイメージし、それを新社屋の形として表現しました。地域の人々やFUKUYAを応援して下さっている皆様とつながるようにデザインされたこの建物で皆様と出たい。「この街にワクワクを創造」したい。そんな想いがこの建物には詰まっています。この社屋が、これからのフクヤ建設の未来や希望の“FLAG SHIP”として皆様に愛されることを願っています。

FUKUYAの変わらないこだわり これからの暮らし

社歴25年を超える二人に聞いたFUKUYAのこれまでとこれから。
そこには、時代が変わっても変わらない「こだわり」がありました。

[インタビュー] フクヤ建設 代表取締役 福家 淳也 / 戸建事業部部长 内田 福子

ずっと大切にしてきたのは、
素材感と空間の美しさ。

創業52年の歴史を刻んだ当社が「家づくり」をはじめたのは27年前。前社長が創業した当初は、公共工事の受注が中心だった。現社長は、住宅事業部発足のため、父親である前社長から呼ばれ高知へUターン。異業種からの転職で「右も左も分からない状態」から築き上げた住宅事業部最初の設計士が、内田だった。まさに二人は、当社の家づくりの歴史とともに作り上げた「同志」である。「当時、自分が本当に建てたい、住みたいと思える家を、考え尽くしてつくった展示場が、アースクラフト“だった。”と、社長。内田は、その展示場に心惹かれて入社を決めたという。アースクラフトは、外部設計事務所の設計。内田は入社から10年以上、その設計事務所から設計のいろはを学んだ。シナベニアの建具、ヒノキの枠組、ナラ材、外壁のジョリパッド塗装。当社こだわりの素材は、その時代からまったく変わっていない。二人が当時良いと信じた「流行りすたりのない、自然素材を使った家づくり」が、今もしっかりとベースにある。「ちゃんとしたものをつくりたい」素材感や美しい空間を大切にしたい家づくりは、ずっと変わらない当社のこだわりなのだ。

あえて取り込んできた“新しい風”

変わらないこだわりは、
変わること。

「長い社歴のなかで、変わらないことは何かありますか？」という問いに、社長が即答したのは、変わること。自社設計が可能となった後も折をみて、設計の外部委託を続けてきたのは、社内に「新しい風」を取り込む狙いがあった。2012年には、展示場兼カフェ「su」を、建築家谷尻誠が設計し、話題に。当時は建築中に、たびたび社内勉強会も行ったという。食欲に新しいデザインを吸収し、自社の設計をアップデートし続ける。いまでは「デザイン力」で、選ばれる会社へと成長した秘訣は、そこにあった。それでも慢心しては駄目だと、今回新社屋建設の設計も社長は外部委託を選んだ。新社屋を設計した矢野建築設計事務所との関りも例に洩れず、新しい風を吹かせてくれた。「新社屋建設で特に印象的だったのは、家具選び。私たちはつい、白やグレーを選ぶけれど、矢野さんが提案してくれたのは、青と黄色でした。はじめは凝り固まった考えから葛藤もあったけれど、矢野さんも折れなくて。でも、完成した空間をみたとき、本当に感動しました。こんな風に、新しい美しさを目の当たりにする瞬間に仕事のやりがいや楽しさを実感します。」と、内田は楽しそうに笑った。

ひかりのある暮らしを
届けられるように。

「健やかさの概念も、時代とともに変化してきていますよね。」と、社長。一昔前までは、住宅に求められていた断熱や耐震などの性能も、もはや当たり前のものに。これからは、安心安全な土台のうえに、どれだけワクワク感を加えられるか。それこそが、当社の使命であると感じているという。その使命を果たすためにまずは、わたしたち自身が精神的に健やかであることが大切。新社屋建設にも「社員の皆に健やかに働ける環境を提供したい」という社長の願いが込められている。「あえて建物の半分以上に、外部のひとが入りうる開かれた環境をつくりました。社員の皆が健やかに働き、どんどん新しい居場所や発想を創造していってほしい。そして、地域や社会の皆様が、未来に対して希望がもてるような会社であり、場所でありたい。」と、最後に社長は熱く語った。「Eat & Goods 事業部」が発足し、わたしたちの提案する暮らしも、さらに住宅の枠組を超えたものに。これから、新しい場所からわたしたちが提案するのは、明日が来るのが楽しみにするような、ひかりのある暮らしだ。



フクヤ建設代表取締役
福家 淳也

戸建事業部部长
内田 福子



上/業務と休息を区別するため個人デスクでの屋食は原則禁止。眺めのよい南側のフリースペースは人気の屋食場所。右上/2階カフェスペースには「Bistro & Cafe FLAG」がオープン予定。社員は社員価格で利用できる。右下/「ルームサイン」にも矢野建築設計事務所の、遊び心が光る。

